



2021年7月24日 16:00-19:00 開催

日本熱帯医学会学生部会主催

## 「国境なき医師団を知る」報告書

提出者: J-Trops 国境なき医師団イベント 企画メンバー

提出日: 2021年10月4日(月)

---

## 目次

1. 企画概要
2. 背景
3. 企画の詳細
4. 広報状況
5. 各ご講演の内容
6. 参加者アンケート解析
7. 謝辞

---

## 1. 企画概要

国境なき医師団（Médecins Sans Frontières、以下、MSF）に関心のある学生が、MSFの活動に従事されている方々のご講演を通して、MSFの活動や熱帯地域における臨床活動について理解を深めること、また様々な方のキャリアを知るとともに、学生自身がキャリアについて考える機会を提供することを目的とした。具体的には、以下の5つの目標が達成されるよう、企画内容を決定した。

- ・ MSFの活動や熱帯地域の臨床活動について理解を深める。
- ・ 様々な職種や、紛争地から僻地に至るまで様々な地域で活動に従事されてきた方の視点から、MSFの活動について多面的に知る。
- ・ 実際にMSFで働かれている方のキャリアを知り、参加者自身の今後の活動や進路の参考にする。
- ・ 参加者がMSFを含む熱帯地域の医療活動に従事することをより具体的にイメージできるようにする。
- ・ 過去に学生部会の勉強会で取り上げた疾患に関する知識が、現場でどのように役立つのかを知る。

## 2. 背景

MSFは医療へのアクセスが困難な人々への医療援助を世界各地で行っている団体であり、熱帯地域においてもその活動を広く展開している。国際協力分野を目指すにあたり、様々なキャリア選択がある中で、このようなMSFの活動に興味をもっている学生も多い。また、弊団体（熱帯医学会学生部会）会員の中でも、熱帯地域における臨床活動に興味のある学生が多いことが、この半年ほどの勉強会を通じて明らかになった。

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界的な医療支援活動のニーズはより一層高まり、その活動の重要性は改めて認識されている。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行が続いている中、学生が熱帯地域などに直接足を運び、現地で学びを深めるということが、依然として困難な状況にある。また、将来的にMSFを含む医療支援活動に参加したいと考えている学生が自身の進路を考える際、学生をターゲットとした具体的なキャリア構成を考える機会が少ないという現状がある。

このような背景から、MSFでの活動に従事されている方からの話を伺う機会は、非常に有意義な体験となると考えた。

## 3. 企画内容の詳細

<プログラム>

実施日：2021年7月24日(土) 16:00-19:00

【第1部】

---

16:00-16:05 イン트로ダクション  
16:05-16:55 Marcelo Navarro 氏 にご講演  
16:55-17:05 質疑応答  
17:05-17:20 休憩

【第2部】

17:20-17:25 イン트로ダクション  
17:25-17:55 高橋健介先生 にご講演  
17:55-18:25 袖野美穂先生 にご講演  
18:25-18:45 パネルディスカッション  
18:45-19:00 質疑応答

第1部 MSFについて

所要時間：1時間

対象：国際協力に興味のある大学生（学部問わず）

講師：Marcelo Navarro（マルセロ・ナヴァーロ）氏（ロジスティシャンとして活動された後、2021年現在人事採用を担当されている）

概要：MSFの全体像、各職種について学ぶ。講演は英語で行う。

スケジュール：

- 1.イン트로ダクション 5分
- 2.MSFについて 20分
- 3.各職種について 25分
- 4.質疑応答 15分

（休憩15分）

（休憩含めて計80分）

講演内容：第1部では、まず初めに、MSFの全体像について学び、その後、各職種についての説明をいただいた。MSFのリクルート部門では、MSFの様々な職種の採用を行っているため、採用担当の方のお話を伺うことは、学部問わず国際協力に興味のある学生にとって有意義な機会になると考えたとなった。また、異なる分野の職種についてのお話を聞くことで、互いの職種について理解を深めることも目的とし、最後に質疑応答を行い、参加者がさらに講演者のお話を深く伺う機会とした。

## 第2部 医師のキャリアについて

所要時間：1時間40分

対象：全国の医学部生、若手医師

講師：高橋健介先生（内科医）、袖野美穂先生（小児科医）

概要：今回の講演会では、内科医である高橋健介先生、小児科医である袖野美穂先生をお招きし、医療従事者の国際協力分野におけるキャリアパスに重点を置いて、現地での活動の話や、ご活動に至るまでの経緯などをご講演して頂いた。

スケジュール：

1. イントロダクション 5分
2. 高橋健介先生ご講演 30分
3. 袖野美穂先生ご講演 30分
4. パネルディスカッション 20分
5. 質疑応答 15分

計100分

講演内容：異なる診療科や派遣地域といった、様々なバックグラウンドをお持ちの医師2名をお招きし、これからのグローバルヘルスを担う世代が将来の幅広い選択肢に触れる機会とした。国際協力の現場とはどのような現場なのか、国際保健に携わるにあたりどのようなキャリアパスがあるのかなどについて、講師の方々にご自身のキャリア、人道支援の現場での経験をお話しいただいた。また、紛争地、医療アクセスの低い僻地といった様々な地域での経験談を共有して頂くことで、世界各地で行われるMSFの活動に対し、より具体的なイメージを持ち、参加者それぞれが自身の将来について主体的に向き合うきっかけとした。さらに、質疑応答の中で、MSFで臨床医として活動に従事された経験のある先生と、MSFを含む熱帯地域の医療活動に興味のある医学生や若手医師達との意見交流の機会を設けた。

## 4. 広報状況

J-Trops会員へのSlackでの告知に加え、各学科内の連絡手段として用いられるLINEグループやJ-TropsのSNS (Twitter、Facebook)、及び特設ホームページにおいて広報を行った。広報ツールの中では、特に学年ラインでの広報からの参加登録件数が圧倒的に多かった（表1）。

J-Trops非会員向け	学年ライン	363
	J-Trops facebook	5
	J-Trops Twitter	2
	知人の紹介	90
	その他	23
J-Trops 会員向け		39
計		522

表1 本企画を知ったきっかけの内訳（複数回答可）

参加者登録（494名）をいただいた学生及び若手医師の方の所属都道府県の分布（図1）より、日本全国偏りなく参加者を募集できたと考えられる。一方で、特に近畿地方における広報活動が不十分であったことも窺え、特に三重、和歌山、兵庫、岡山の4県においては参加希望者が0人であった。参加登録の全く無かった都道府県の大学については、今年度広報が行き届かなかった可能性があるため、来年度の広報ルート確保改善につなげたい。

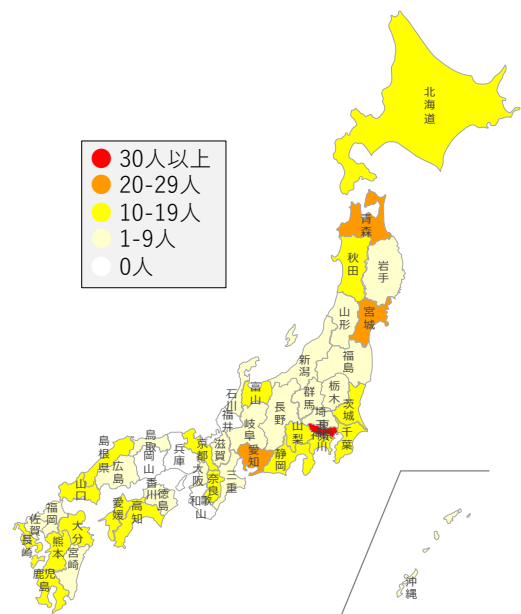


図1 参加登録者の日本全国への分

## 5. 各ご講演の内容

### ▽Marcelo Navarro氏 ご講演について

第1部では、ロジスティシャンとして、またMSF日本の採用担当者としてご活躍されているMarcelo Navarro氏を招き、国境なき医師の概要、非医療職及び医療職の各職種、ロジスティシャンとしてのご活動についてご講演いただいた。

ブラジルご出身のMarcelo氏はUniversity College Londonで土木工学を学び、大手建設会社で8年間アマゾン熱帯雨林の僻地に病院を建設する仕事をされていた。ウガンダでは、小中学校などの教育施設の建設や改築に携わっていらしゃった。2017年に日本に渡り、2019年からはMSFで活動されている。MSFでは、アフガニスタンで6つの病院の建設活動を行い、南スーダンではスーダンとの国境に近い地域でクリニック建設のサポートをされていた。

MSFが難民キャンプ、紛争地域、栄養失調蔓延地域、自然災害、感染拡大地域など、様々な理由で保健医療サービスを受けられない人々を対象として医療支援を行っていることは、参加者の多くが知っていることと思われるが、本講演では、MSFの活動が単なる医療提供だけではないこと、また医療スタッフ以外の多くの職種のスタッフによって成り立っている活動であることを強調されていた。MSFは、Independence（独立）、Neutrality（中立）、Impartiality（公平）の立場で医療・人道援助活動を行っており、これらの活動理念は、活動資金のうち97%は民間からの寄付で成り立っている、という事実にも如実に反映されている。活動地の現状報告や患者の方々の声を届ける証言活動も重視して行っていることから、国家間の複雑な思惑が問題となることの多いMSFの活

---

動地域で、どの国家にも依存することなく平等に医療を提供する存在であり続けることに誇りを持っていることが窺えた。MSFが中立として存在すること自体の意味も、ご講演の中から深く理解することができた。

また、MSFは世界各地に6つのオペレーション組織と38の事務局を設置し、2020年は約4万5000人の海外派遣スタッフ、現地スタッフ、事務局スタッフが、88の国と地域で活動を行っている。MSFスタッフの構成は51%が医療職、49%が非医療職であり、現地での円滑な医療支援やスタッフの安全確保には、多くの非医療職のスタッフの協力が必要不可欠であることも説明されていた。世界の多種多様な地域において質の高い医療を提供するために、MSFではただ医療を提供だけでなく、多職種のスタッフと円滑なコミュニケーションを取れるとともに、あくまでその土地の文化的背景や環境を大切に、柔軟に様々な人々のニーズに対応できる能力を持つ医師が求められていると感じた。

講演の中ではMSFの組織体制に加え、採用までにたどる道のりについても具体的にお話しいただいた。特に採用から派遣までの具体的な道のりや、活動に参加するために必要な言語能力などの情報は、我々学生が実際にMSFのスタッフとして活動するまでの流れや、そこまで将来MSFで活動する医師を目指すにあたって、医学的知識や技能を身につけることはもちろんのこと、言語面や多職種連携のスキルも磨き、世界の様々な環境で多種多様な医療スタッフや患者と接することを楽しむことができる医師像を目標にすべきだと、将来に対してより具体的なイメージを持つことにつながった。

#### ▽高橋健介先生 ご講演について

第2部の前半では、感染症内科医である高橋健介先生をお招きし、医師のキャリアパスを中心にご講演をして頂いた。

演者である高橋先生は北海道出身で弘前大学を卒業後、八戸市立市民病院での勤務を経て長崎大学大学院に進学され、呼吸器内科、感染症科、総合内科の診療経験をjえて現在は救急救命センターで勤務している。。2014年のエボラ出血熱のアウトブレイクを機にMSFの活動に参加することを決心され、その後エチオピアやリベリアでの医療支援をご経験された。また、長崎の離島医療で培った総合診療力を武器に国際協力から国内の地域医療や僻地医療、そして災害医療の現場に至るまで幅広くご活躍なさっている。中学生の頃から発展途上国での医療活動に憧れを抱いていた高橋先生は、学生時代からアジア医学生連絡協議会などの学生団体に所属し、世界の医療現場で活躍したいという志を持つ仲間達との交流を図っていた。また、学生時代に実際に自らの足で途上国に赴いたことで感じた無力感ややるせなさから、国際協力医師として働きたいという思いを確固たるものにしていった。

実際の現地での活動は内科医の枠を超え、まさに総合力が求められるものであった。特に発展途上国においては小児の患者が多く、マラリアやリーシュマニアをはじめとした熱帯地域ならではの特殊な症例を扱っていく中で、診療科という枠を超えた医療活動を体験したという。講演前のアンケートで多くの学生

---

が不安に思っていたMSF派遣の安全性については、多くの非医療スタッフのサポートの下で安全で快適な住環境が整備されているとのお話であった。また、日本の現状としてMSFをはじめとする国際協力現場への派遣に寛容な病院が少ない、もしくは派遣をサポートする体制が整っていないという問題を挙げられた。次世代のMSFを担う若者がもっと気軽に活動に参加できるようにするためにも、こうした問題を克服していく必要性を示された。

#### ▽袖野美穂先生 ご講演

第2部の後半では、小児科医である袖野美穂先生に、これまでのキャリアパスやMSFでの小児科医としてのご経験についてご講演をしていただいた。

袖野先生は金沢大学をご卒業後、亀田総合病院で初期研修、国立国際医療研究センターで後期研修を行い、小児科専門医を取得された。ジョンズホプキンス大学院で公衆衛生修士を取得された後、国境なき医師団に参加し、小児科医としてイエメン共和国の3つの病院での医療支援をご経験された。現在は、国立国際医療研究センターの国際医療協力局に所属し、JICAや日本政府、国際機関を含めた多機関の国際医療協力を携わっていらっしゃる。

袖野先生は国際協力医師のキャリアを早期から積まれている。医学部生時代、大学での医学交換留学で留学生の受け入れやアリゾナ大学での臨床実習をされるなど国際的な医療を学ばれるとともに、国連難民パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）の活動を訪問し、難民の問題に興味を持たれた。初期研修時にはアメリカのサンフランシスコで難民外来の研修も経験された。さらに、後期研修時代には、国際保健の業務の研修もできる国立国際医療センターの国際臨床レジデントとして、ラオス、タイ、モンゴルなどでも業務を行われた。袖野先生は目標を持って学生時代、研修時代からのキャリアを歩んでおられ、多くの国際協力を志す医学生がキャリアを考える上でのロールモデルの一つとなるお話であった。

MSFでのご経験については、小児科医として現地でどのような活動を行われていたかをお話しいただいた。イエメン共和国は、世界最大の人道危機に直面している。紛争が現在も続いており、10分に1人子供が死亡していたり、重篤な栄養不良の子供が多かったりと、日本とは大きく異なる環境である。先生が活動されていた地域で空爆はなかったが、近くの地域で空爆があったとの情報が入ることもあったとおっしゃっていた。小児の臨床診療だけでなく、現地スタッフの指導や新設された新生児室の支援、薬剤耐性菌への取り組み、新生児死亡や栄養不良の原因調査などを行われた。また、先生はご専門の小児だけでなく、成人の診療も指導された。このように、MSFの活動では、自分の専門性だけでなく幅広く診る力が必要である。袖野先生は、日本での小児科医としての診療経験などに加え、初期研修医時代の総合診療の経験が役に立ったとお話されていた。ご講演の最後には、小児科医は世界中の子供、お母さん、家族を笑顔にする仕事であるとおっしゃっており、小児科医の醍醐味を強く感じた。

将来医師として国際協力に関わりたい学生の中には小児科に興味を持つ学生も多く、小児科医としてのキャリアパスや、現地での活動を学ぶ大変貴重な機会であった。



## ▽パネルディスカッション・質疑応答

講演会終了後に行われたパネルディスカッションでは、第2部後半にご講演をされた袖野先生も交え、学生時代にしておくべきことや研修病院の選び方、さらにはMSFに参加するにあたり必要な学位や資格などについてのお話をして頂き、参加している学生や若手医師が自らのキャリアと照らし合わせながら考える機会を設けることができました。また、最後の質疑応答では、普段はお聞きできない貴重な体験談に刺激を受けながら、生き生きと話を聞く学生の様子も見受けられた。家庭との両立やワークライフバランスについて参加者から多く質問があったが、先生方のご意見や周りの知人の方の例をもとに丁寧にお答えいただき、将来を考える上での選択肢を示していただいた。新型コロナウイルスの流行により、先生方から直接お話を聞くことはできなかった一方で、逆に普段お会いすることの出来ない先生と全国の学生が画面越しに繋がることの出来た、非常に有意義な講演会であったと確信している。

## 6. 参加者アンケート解析

参加者の内、参加後アンケートに記入していただいた201人のご回答をもとに、本企画への参加者の傾向や満足度についてデータをまとめた。

### ○参加者と参加セッションの傾向

#### ・参加者の学年の割合

本企画は大学生及び若手医師を対象者として広報を行った。低学年の参加が多いものの、どの学年からも偏りなく参加していただけた（図2）。

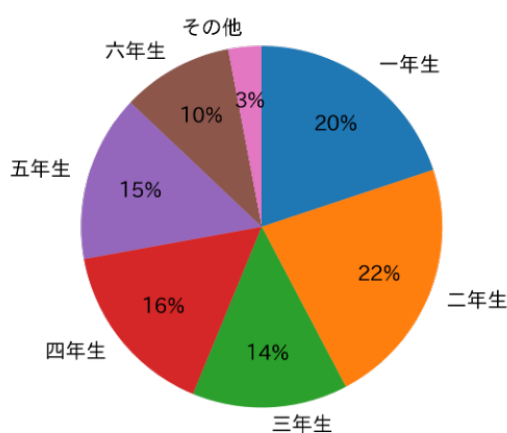


図2 参加者の学年構成

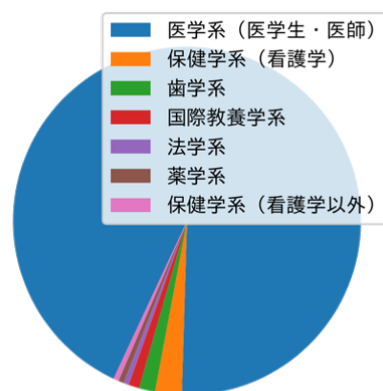


図3 参加者の専門構成

#### ・参加者の専門構成

参加者の内95%以上が、医療系学部所属学生及び医療従事者であった（図3）。弊団体の所属学生のほとんどが医療系学生であることもあり、医療系の学生や医療従事者に対する広報活動が充実していたことが理由として考えられる。

#### ・各セッションごとの参加人数

参加者の参加セッションごとの参加人数を示した（図4）。広報対象が医療系学部に偏っていたため、片方の部のみ参加している参加者については、1部のみ参加者に比べ、2部のみ参加者が多い。

一方、どちらの部にも参加した参加者が片方の部にも参加した参加者よりも多かったことは、医師の活躍が注目されがちな国境なき医師団において、非医療職のスタッフがどのように活躍しているのか、医療職スタッフと非医療職スタッフがどのように連携を取っているのかについて、参加者の興味が高かったことを示すと考えられる。

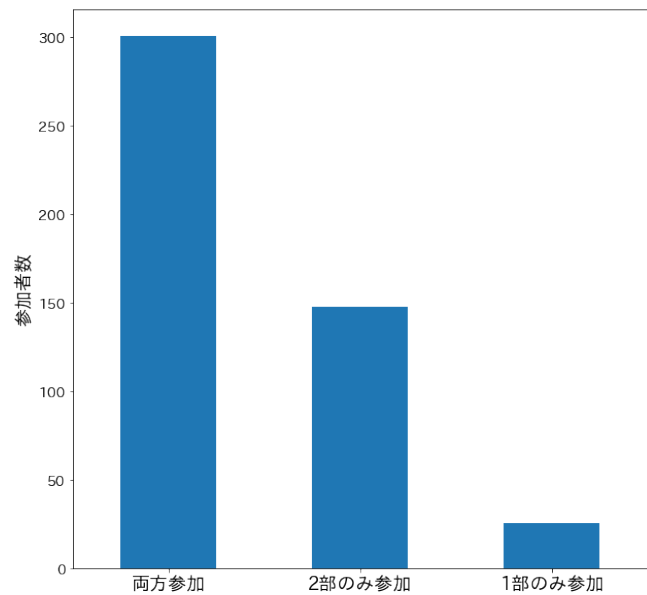


図4 セッションごとの参加者数

### ○参加者の満足度

#### ・各セッションへの満足度

1部、2部、及び2部パネルディスカッションの満足度を回答必須項目として入力していただいた。3つの項目全てで、アンケート回答者の80%以上から「満足」「やや満足」であるという回答を得た（図5-7）。

なお、アンケート回答者数は、1部参加者が136名、2部参加者が191名であった。

1部では2部の満足度に比べて「満足」の占める割合が少し減少していることについては、後述の「参加者からの声」でも見られるように、「医療従事者でなく、（非医療職で）現場で活動をされている方のお話が聞きたい」という意見があった。企画全体が医療系職種の話に偏っており、また1部の講演内容として、MSFの活動の概要と非医療職についての説明、という広範な内容を依頼させていただいたため、非医療系職種について扱う割合が参加者の期待よりも小さくなってしまったことが考えられる。来年度以降、これらの職種にも視野を広げることを考えるならば、MSFについての説明と非医療系職種、医療系職種それぞれに十分時間を取れるよう、ご講演依頼の内容やプログラム構成、ご講師派遣依頼の人数についても改善する余地があると感じた。

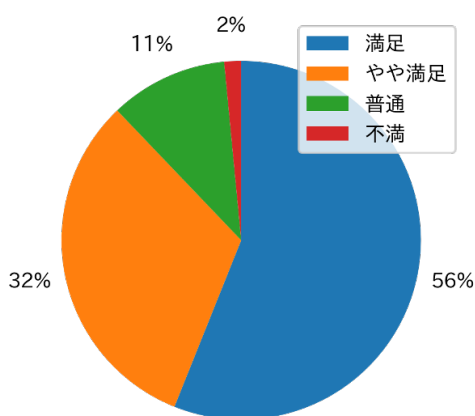


図5 一部参加者満足度

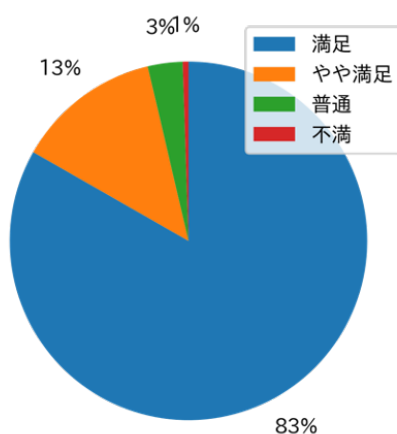


図6 二部参加者満足度

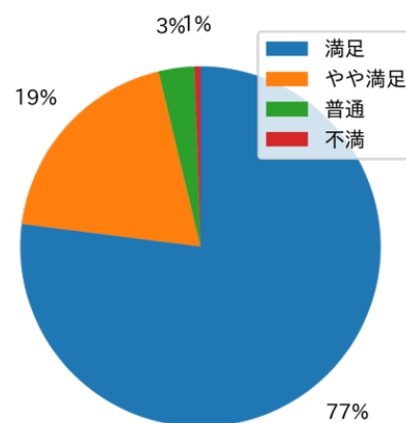


図7 二部パネルディスカッション満足度

・ 国際協力への興味関心の向上

本企画を通して、企画前に比べて国際協力へのモチベーションが高まったかについて、回答必須項目として入力していただいた（図8）。97%の参加者から、「非常に高まった」「高まった」という回答をいただき、本企画が、国際協力に興味を持ち、将来関わりたいと考えている学生のモチベーションの維持や向上につながったと考えられる。

・ 来年度以降の企画開催について

「来年度以降、同様の企画があったら参加したいか」という問いについて、回答必須項目として入力していただいた（図9）。同様の企画開催への希望を87%のアンケート回答者からいただいたことから、本企画を通じて国境なき医師団の活動、また国際協力へ高い興味関心を示していただいていることに加え、今回扱えなかった分野についても今後理解を深めていきたいと考えている参加者の方が多いと考えられる。

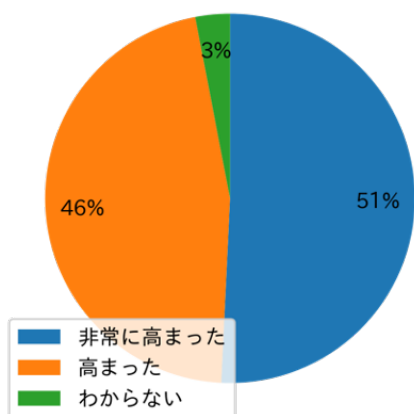


図8 企画を通し、国際協力へのモチベーションが高まったかについてのアンケート調査

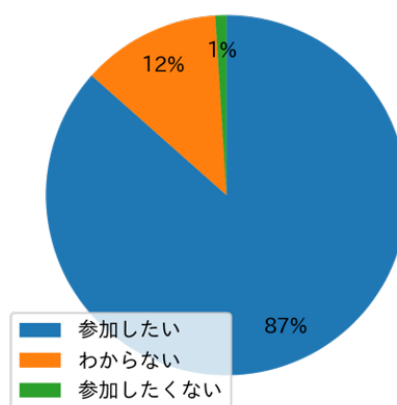


図9 同様の企画があったら参加したいかについてのアンケート調査

特に医師のキャリアについては、今回第2部でご講演いただいた内科、小児科以外の科についても窺いたいというコメントが見られた（後述「参加者からの声」参照）。

### ○参加者からの声（学年別）

アンケート回答者201名のうち51名から、必須項目の回答に加えて、本企画への積極的なコメントをいただいた。特に、自身の将来について広く視野を持って考えたい学生が多いと考えられる学部1年生は、コメントの記入率が高かった。（表2）

	①アンケート回答者全体	②アンケートのコメント回答者	割合（②/①×100）
学部1年生	40	15	38%
学部2年生	45	11	24%
学部3年生	28	5	18%
学部4年生	32	9	28%
学部5年生	30	5	17%
学部6年生	20	4	20%
その他	6	2	
計	201	51	25%

表2 アンケート回答者に対するコメント記入者の割合(学年別集計)

#### 【学部1年生】

- ・ 貴重なお話をありがとうございました。
- ・ めっちゃ楽しかったです。
- ・ 国境なき医師団は医療系のプロの集団だと思っていたので、考えが180度変わりました。とても良い機会を与えて頂き、ありがとうございました。
- ・ 生の声を聞く事はなかったので新鮮でした。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 今後、医学生として勉強していく上でのモチベーションが高まりました。
- ・ 私はまだ大学1年生なので進路は詳しく決められていないが、そのうちの一つとして「海外で働く」ということがあったので、「国境なき医師団」についての情報は参考になった。
- ・ 実際にMSFを体験している方のお話を聞けて大変興味深く感じました。
- ・ とてもいい経験になりました。
- ・ 非常に興味深いご講演でした。ありがとうございました。
- ・ 自分ではなかなかお聞きできない、現場で働いていらっしゃる方々のお話を聞ける大変有意義な機会でした、ありがとうございました。
- ・ どんな経験でも興味のあることに参加していけば後々自分の武器となるのだと感じました。まだ1年生ですが、様々な経験を積んでいきたいというモチベーションになりました。ありがとうございました。
- ・ ご丁寧な講演や質疑応答をありがとうございました。
- ・ 実際に現場に行かれて活動を行っている方のお話は非常に貴重でいい経験になった。自分はこの企画へ

---

は興味本位で参加したが、今回のお話を聞き真剣に国際支援やMSFのことについて調べてみようと思った。まだ医学部1年で何も分からないが今回の企画は自分の興味のある分野を見つける上で非常に役に立つと思う。今回参加して非常に良かったと思う。

- ・気軽に参加できるシステムがとてもよかった

#### 【学部2年生】

・自身にとって興味があるかないかということを知ることができ大変意義深かったです。運営の皆様ありがとうございました。

- ・柔軟なキャリアがありうることに以前よりも視野が広がり、大変有意義でした。

- ・家庭との両立について話を伺うことができ非常に良かったです。

・実際にMSFの活動に参加した方にしか分からないことを伺うことができ、有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

・MSFに実際に参加している方の生の体験を聞く事ができて、非常にためになりました。ありがとうございました。

・面白かったです。国境なき医師団は完全に遠い世界だと思っていたので、このような身近に感じられる経験をさせていただいて光栄に思います。

・実際のキャリアや実際の現場での体験などを聴くことができ楽しかったです。ありがとうございました。

・初めて国境なき医師団に参加された医師の方のお話をお伺いできて、非常に勉強になりました。ありがとうございました。

・自分の将来の進路を考える上で貴重な話を拝聴出来てとても良かったです。ありがとうございました。

#### 【学部3年生】

- ・とても有意義な講演でした。ありがとうございました。

・実際に働いている方の、お話を聞かせていただいて非常に有意義でした。また、他大学の方がきちんとお話をされているのを見て、レベルが高く差があることを実感しました。

・今回話だけでも聞いてみたいなというくらいの熱量で参加させていただいたのですが、とても興味深いお話が多くあり、1部の英語での講演もお恥ずかしいことに聞き取れないところも多かったのですが楽しく拝見させていただきました。また、内容以外にも自分と同じ医学生がこのようなイベントを企画したり、勉強会をしていたり、ということにも刺激を受けました。ナビゲーターや質問者の皆さんがとてもかっよく自分もそういう人目標にしたいと思いました。自分はまだ将来がまだあまり考えられていない状況ではありますが、今日の講演会はとても有意義でした。自分の視野を広げるためにももしまあれば是

---

非参加させて頂きたく思います。講演していただいた先生方、企画運営に携わった皆さん、本日はありがとうございました。

・自分の中の士気が高まりました。MSFで活動するためにはそれ相応の経歴や手技が必要なのだと分かりました。とても刺激になりました。貴重なお話をうかがえる機会をありがとうございました。

#### 【学部4年生】

・今回の説明会でMSFの活動についてより詳細に知ることができてよかったです。

・医療従事者でなく、現場で活動をされている方のお話をもっと伺いたかったなと感じました。質疑応答も医師関係の方が多かったため、どちらかにフォーカスしたイベントなどがあればぜひ参加したいなと思いました。

・次は外科(特に女性)のお話を聞きたいです。

・MSFに参加するうえで重要なことや意識することなどをお聞きできて大変良かったです。ありがとうございました。

・パネルディスカッションがよかった

・面白かったです。興味ある人多くて嬉しかったです。

・大変興味深い講演と、主催・参加する学生の意欲の高さに大変刺激を受けました。このような貴重な機会を設けていただき、ありがとうございました。

・パネルディスカッションや質疑が特に勉強になりました。国際協力をしたい希望があるのですが、現実的な活動のイメージができなかったため、先生方のお話でキャリアやMSFの具体的な活動をイメージできて大変有益な時間になりました。ありがとうございました。運営の皆様もこのような機会をくださり、本当にありがとうございました。

#### 【学部5年生】

・ありがとうございました

・とても勉強になりました。ありがとうございました。もし次がある場合は「あまり国際経験がないにも関わらず行った人」がいたら聞いてみたいです笑

・初めて実際に海外協力をされている方のお話を伺えて本当に有意義でした。質問内容も知りたいことを明確に聞いていただけて大変よかったです。先生方、運営の皆様、本日は楽しいご講演をありがとうございました。

・ネットで調べるだけでは知ることができないキャリアの話や、どのような経緯でMSFに入るようになったのかなど具体的な話を数多く拝聴し、非常に勉強になりました。このような機会を設けていただきありがとうございました。

#### 【学部6年生】

- 
- ・とても有意義な講演会でした。ありがとうございました。
  - ・貴重な機会をいただきありがとうございました。
  - ・質問にも回答して頂きありがとうございました。
  - ・大変参考になりました。ありがとうございました。

#### 【その他】

・素晴らしいイベントを企画してくださった、J-Tropsの皆さまに感謝申し上げます。参加させていただきありがとうございました。J-Tropsの皆様、高橋先生、袖野先生の今後の更なるご活躍をお祈り申し上げます。(卒後15年、2部のみ参加)

## 7. 謝辞

最後になりましたが、ご多忙の折、私たちの企画の実現のためにお力添えをいただきました、国境なき医師団広報部の皆様、また参加者にとって非常に有意義なご講演をしてくださいました、Marcelo Navarro氏、高橋健介先生、袖野美穂先生に、心より感謝申し上げます。また、平日頃より学生部会の活動を見守ってくださっている熱帯医学会の山城哲先生、金子修先生にも、本イベント開催に当たり多大なるご協力をいただきました。この場をお借りしまして深く御礼申し上げます。

参加者からは、「実際に現地で活動されてきた方々のお話を聴けたことが非常に有意義であった」「同じ興味を持つ人が多くいることを知れて嬉しかった」といった声が多く寄せられました。このようなイベントが、将来、国際協力に携わりたいと考えている学生のモチベーションの維持や向上に大きく貢献できたと感じられ、企画メンバー一同本イベントの成功を大変嬉しく思うと同時に、一学生団体がこのような企画を実施するにあたり、親身になって支えてくださった方々への感謝の思いに絶えません。

また、参加者の方からのご要望として「外科の分野のお話が聞きたい」「非医療従事者の活動をもっと知りたい」といった声もあり、国境なき医師団の携わっていらっしゃる活動について、本イベントではご講演として取り上げられなかった部分についても学生の興味が高まっていることが窺えました。このような多数の学生の声も参考に、来年度以降も、学生のニーズに応えられるようなイベントをぜひ企画していければと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

[J-Trops MSFイベント企画 2021年度メンバー]

◎：リーダー ○：副リーダー

泉澤 文子（長崎大学2年）

○上杉 優佳（東京大学4年）

高泉 優（慈恵医科大学4年）

竹田 早希（東京女子医科大学5年）

---

玉井 葉奈（愛媛大学6年）

奈倉 里穂（千葉大学2年）

◎山崎 里紗（長崎大学5年）